

CO-DO 30

横浜市脱温暖化行動方針

(概要版)

I 取組の意義 ～まったなしの地球温暖化対策～

平成 19 (2007) 年 11 月にまとめられた気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第 4 次報告によれば、近年の温暖化の原因は人為起源とほぼ断定され、今後 20～30 年の間の取組が長期的な平均気温の上昇と気候変動の影響の大きさを決定付けるとされています。この 12 月には気候変動枠組み条約第 13 回締約国会議 (COP13) が開催され、京都議定書の第 1 約束期間以降 (平成 25 (2013) 年以降) の長期的な対策についての議論が本格化しています。このように、地球温暖化対策は、国際的にみても、ますます加速化している状況にあり、全世界で危機感を持って緊急的に取り組むべき課題になっています。

平成 22 (2010) 年度を目標とした従来の取組を進めていくだけでは、今後予測される深刻な影響を回避することはきわめて困難であるといわざるをえません。単にこれまでの延長線上ではない新たな取組が必要です。

このような状況を踏まえ、横浜市は先頭に立って行動し、温暖化対策の新たな局面を作り出していかなくてはなりません。

II 4つの基本方針

横浜市は、以下の 4 つの基本方針のもとで、中長期的な将来も見越して、先頭に立って新たな取組を進めていきます。

- ・ 二酸化炭素の排出削減につながる仕組みの構築と生活の質の向上を図ります。
- ・ 実効性のある取組に政策資源を集中し、国や地方自治体の政策イノベーションを喚起します。
- ・ 市場需要プル型[※]の施策を積極的に展開します。
- ・ 市民・事業者等との活発なコミュニケーション・協働と政策連携によって取組を進めます。

※市場を拡大して需要を引き出すことで、施策の目的に合った製品やサービス等を普及することを目的とした施策。例えば、新たなビジネスモデルの導入、関連産業の育成、市場拡大を誘導する制度の導入などが考えられる。

III 温室効果ガス排出量の削減目標

- ・ 平成 62 (2050) 年度までに、60%以上の削減を図ります。
 - 平成 16 (2004) 年度の排出量からみて年間でおおよそ 1300 万 t の二酸化炭素の削減であり、例えば、横浜の風力発電・ハマウイング (約 1,100 t-CO₂) 11000 基以上、1 人 1 日 1 kg 削減 360 万人分 (約 130 万 t-CO₂) の 10 倍程度に相当
- ・ 平成 37 (2025) 年度までに、30%以上の削減を図るとともに、再生可能エネルギーの利用を現在の 10 倍にします。
 - 年間でおおよそ 530 万 t の削減であり、例えば、ハマウイング 4800 基以上、1 人 1 日 1 kg 削減 360 万人分の 4 倍程度に相当

※平成 16 (2004) 年度比、一人当たりの値

Ⅳ 新たな局面をつくる取組 ～7つのコードからモードへ～

生活の場面、事業活動の場面で、あるいは、建物、交通、都市や緑といったまちづくりにおいて、温暖化対策の新たな局面を作っていくためには、それぞれの分野において、どのような将来像の下でどのような取組を進めていくことが必要か、基本方針を踏まえ、脱温暖化の行動方針を検討しました。

また、これに併せて、今後の温暖化対策の展開に不可欠となる再生可能エネルギーの拡大、市役所自身の率先行動についても、行動方針を検討しました。

その結果として、次の7つの分野での取組についての行動方針を定めました（7つの行動（コード、CO-DO））。

生活 CO-DO	一人ひとりの脱温暖化行動から社会を変える
ビジネス CO-DO	脱温暖化ビジネススタイル（商品作り・サービス）から社会を変える
建物 CO-DO	エネルギー性能のよい建物（省エネ・新エネ装備）による都市づくり
交通 CO-DO	徒歩・自転車・公共交通によって移動できる魅力的まちづくりと自動車の脱温暖化の促進
エネルギーCO-DO	再生可能エネルギーを10倍に拡大（飛躍的な拡大）
都市と緑 CO-DO	ヒートアイランド対策などを通じたみどりあふれるまちづくり
市役所 CO-DO	脱温暖化型の市役所づくり

この行動方針のもと、脱温暖化のための横浜型の行動を市民と行政の協働の下で作り上げ（コード）、それがこれからの横浜の脱温暖化の方法・取組として定着し、ひいては横浜の文化となっていくこと（モード）を目指します。

なお、地球温暖化対策は、世界のあらゆるレベルで、議論・検討・研究・試行が行われており、日々新たな情報・技術等の収集、その対応策への検討が必要です。このため、最新の知見に基づく効果のある施策やその実施体制については引き続き検討を行い、さらに新たな施策を追加してまいります。

生活 CO-DO 一人ひとりの脱温暖化行動から社会を変える

自然に脱温暖化の消費行動を取ることができるような制度・仕組みが導入され、市民の生活に脱温暖化行動が定着する世の中を目指します。具体的には、

- ・ 二酸化炭素等の排出を限りなく低下させたスタイルが日常化
- ・ あらゆる行動の基準が脱温暖化型に(一人ひとりが環境に配慮した行動(消費行動)を選択)
- ・ 多様な脱温暖化の行動メニューがあり、多様な市民層で積極的な環境行動・貢献が進展
- ・ 自然に脱温暖化の行動をとることができる制度・仕組みが整備された社会

・ G30 の協働の経験を活かし、脱温暖化の市民行動を盛り上げ、市民力の発揮につなげていきます (横浜の特性を生かした象徴的な事業やインパクトある PR を進めます)

- 省エネを徹底したエコライフスタイル(二酸化炭素の排出のより少ない生活スタイル)の良さを、省エネ活動の成果が家庭内ですぐに確認できる省エネナビなどの機器を用い、実際に市民が体験する省エネ実践モデル事業を東京大学と連携して実施
- エコライフスタイルのよさに目を向けられるよう、横浜にあるプロスポーツチーム(横浜 F マリノス、横浜 FC、横浜ベイスターズ)と連携した二酸化炭素の削減活動を推進
- エコライフスタイルを選択していくことができるよう、家電量販店等と協力した電球型蛍光灯転換を促進する取組を、できるだけ早期の 100%転換を目指し、実施 等

・ 市民の脱温暖化行動を促し、市民の脱温暖化行動の選択を支援する仕組みをつくっていきます

- 脱温暖化の行動活動のアドバイス等で市民行動を支援する「温暖化対策アドバイザー」(仮称)の資格制度を創設
- 脱温暖化の担い手を作る「環境市民大学」(仮称)の開設などにより、市民・事業者と連携して、脱温暖化に関する普及啓発、人材育成、拠点作りなどを推進
- 市民の脱温暖化行動を促進するための仕組みである「横浜環境ポイント」について、平成 19 年末まで行っていた社会実験をさらに発展させ、市民の方がいつでもどこでも気軽に楽しく参加できるポイント制度となるよう、市内の鉄道事業者や流通事業者、市民団体等の方と協働で推進 等

・ 家庭における 3R(G30 行動)を一層推進していきます

- レジ袋の使用を抑制するためのマイバッグの利用拡大や、使い捨て容器削減に向けた各種イベントでのリユース食器の活用など、発生抑制や再使用の取組を促進
- バイオマスの活用を目指し、生ごみ等の資源化のための調査を実施

ビジネス CO-DO 脱温暖化ビジネススタイル（商品作り・サービス）から社会を変える

事業活動に脱温暖化の視点が組み込まれた「脱温暖化ビジネス」の拠点都市を目指します。具体的には、

- ・ 環境配慮システムが導入されており、事業所における省エネ行動が事業所の構成員に普及
 - ・ 企業が温室効果ガスを計画的に削減する仕組みが整備された社会
 - ・ 横浜の持つ地域資源を活用した環境ビジネスが成立し、環境ビジネス・産業の拠点化
-
- ・ **事業者の 3R(G30 行動)を更に充実させます**
 - 事業者の自主的な発生抑制・再使用の取組の支援、環境に配慮した商品情報の発信
 - 一定規模以上の事業者の廃棄物の減量化・資源化等計画書の公表、さらにはレジ袋や使い捨て容器の使用の禁止など、3Rの推進に向けた新たな仕組みや制度について検討

 - ・ **事業者による温室効果ガスの実質的な削減を進めます**
 - 一定規模以上の事業所の温室効果ガスの排出抑制の計画や実施状況の報告を求める「地球温暖化対策計画書制度」において、計画書の公表に加え、対象範囲をコンビニやファーストフード店など業務系事業所へ拡充し、制度の実効性を向上

 - ・ **グリーン購入や環境マネジメントシステム等の環境配慮システムの普及を図ります**
 - 市内事業者や NPO 法人からなるグリーン購入の横浜における地域ネットワークを組織し、地域に根ざしたグリーン購入を普及促進
 - 環境マネジメントシステム(ISO14001 等)の取得のための環境 ISO 市民コンサルタントの派遣による中小事業者支援 等

 - ・ **事業者の省エネ行動を支える環境づくりを進めます**
 - 事業者の省エネ行動の表彰等の制度の検討
 - 省エネアドバイザー制度(市内大規模事業者が協力)による中小事業者の省エネ取組の支援
 - 二酸化炭素の排出のより少ない商品やサービスを消費者が選択できるよう、顧客や利用者への商品・サービスに関する省エネ情報の提供を事業者に対して要請 等

 - ・ **新たな脱温暖化ビジネスのアイデアを公民協働で実現するための拠点となる都市を目指します**
 - 横浜版SBIR(Small Business Innovation Research:中小企業技術革新制度)の拡充、先端産業の創出・育成などの技術開発を支援
 - 観光関連事業者と連携した、環境配慮行動を組み込んだ観光(横浜エコツーリズム)の実施に向けた検討
 - 金融機関と連携した、市民・事業者の環境配慮行動を促進する金融商品の開発の検討
 - 構造改革特区制度等の活用を検討

建物 CO-DO エネルギー性能のよい建物（省エネ・新エネ装備）による都市づくり

省エネ性能が高く、再生可能エネルギーを活用した「エネルギー性能のよい建物」が市場で選択され、それらが都市のストックとなる社会を目指します。具体的には、

- ・ 新たに造られる建築物は、長期的に高いレベルのエネルギー性能を持つ建築物に
- ・ 圧倒的に多数を占める既存建築も、建築の状況に応じて改修や建て替えによりエネルギー性能が向上

・ 建築物のエネルギー性能の評価・格付けの仕組みづくりを進めます

- － 「建物のエネルギー性能の評価・格付け制度」※を検討

※建築物のエネルギー性能の評価・格付け（「建築燃費カルテ」（仮称） エネルギー性能、燃費、改善提案、投資回収の見通し等を分かりやすく表現したもの）を取引等（建設・売買・賃貸・広告等）の時に作成・公表することにより、取引等の当事者が、エネルギー性能の優れた建築物を選択できる仕組み

・ エネルギー性能のよい建物が誘導されるための経済的誘導策・規制的手法を組み合わせた仕組みづくりを進めます

- － 省エネルギー性能の向上、再生可能エネルギー導入などに対する経済的な誘導策（固定資産税軽減等）の検討
- － 必要最低限の建築物の省エネ性能や太陽光・太陽熱等の再生可能エネルギー利用を確保するための規制的手法の検討

・ 脱温暖化都市を可視化する先導的な脱温暖化開発モデルプロジェクトを誘導します

- － 土地所有者等が都市計画の提案を行う「都市計画提案制度」による大型開発等に対する、脱温暖化型モデルプロジェクトへの誘導
- － 市街地環境設計制度の許可条件の設定、戸建てモデル団地の検討等

・ ライフサイクルCO₂※の低い建築物の普及や、建築物の長寿命化を促進します

- － 環境上優れた仕様で、かつ将来の変化にも柔軟に対応できる建築物の普及に向けた環境配慮型の設計指針の策定
- － 中古住宅の住み替え促進や中古住宅の性能に関する情報提供等による良質な中古住宅が流通される市場の活性化

※環境建築や除却時も含めた建物のライフサイクルを通して排出されるCO₂（LCCO₂）。

・ 省エネ化の更なる徹底化の手法を確立し、その普及を図ります

- － 公共建築物について、
 - ・ 広範な建築物に適用できる省エネ効果の可視化による省エネの取組
 - ・ 建築物及び環境特性を踏まえたきめ細かなエネルギー管理
 - ・ ESCO 事業等による省エネ改修
- 等の推進により、建築物等の省エネ化の総合的な手法を確立するとともに、民間建築物への展開を検討

交通 CO-DO 徒歩・自転車・公共交通によって移動できる魅力的まちづくりと自動車の脱温暖化の促進

公共交通機関や自転車の利用に比重を移した過度に自動車に依存しない社会・交通体系、自動車からの温室効果ガス・排出ガスの少ない車両(低燃費・低排出車)に転換された社会を目指し、次のような施策を進めます。

具体的には、

- ・ 自動車単体からの温室効果ガスの排出量が抑制され、低燃費・低排出車が普及した社会
- ・ 都市間をつなぎ、地域の足となる鉄道・バスなどの公共交通機関が利用しやすくなり、自動車交通との適切な役割分担のもと、徒歩や自転車、公共交通によって移動できる便利なまちへ変化
- ・ 過度なマイカー交通を抑制し公共交通利用を促進するための制度が整備され、自動車交通は円滑に、自動車交通需要は抑制へ
- ・ 市民や企業のドライバーは、節度あるマイカー利用やエコドライブを実施
- ・ 都市として必要な道路ネットワークの構築された社会

・ 都心部で先導的な交通施策を展開します

- 民間事業者と連携しながら、コミュニティサイクルなど誰もが手軽に利用できる新たな自転車施策の検討
- 公共交通機関共通フリーチケットの社会実験の実施

・ 自動車単体の排出抑制を進めます

- 公用車への率先導入や運送事業者等の経済的支援等による自動車の低燃費・低排出化の更なる促進
- 窒素酸化物(NOx)や粒子状物質(PM)等の自動車の排出ガス性能や安全性を十分考慮した上で、バイオ燃料など再生可能エネルギーの効果的な導入方策を検討

・ 徒歩・自転車・公共交通によって移動できる便利なまちづくりを進めます

(自動車交通の円滑化や需要の抑制を図ります)

- 一定エリアに流入する自動車への規制、駐車場利用への課金制度^{※1}、パークアンドライドシステムなど自動車交通の抑制に向けた仕組みの構築や、新たな公共交通システム導入、交通需要マネジメント制度^{※2}導入など、環境負荷軽減につながる交通施策について検討
※1 課金により、マイカー利用を控えようとする心理を掘り起こし、目的地や交通手段の変更を促すとともに、課金した結果得られる財源を環境政策や都市交通政策に活用する施策
※2 リアルタイムの交通情報提供システムの導入や駐車場案内システム高度化などドライバーの適切な経路変更を促す施策
- 神奈川県警と連携し、自転車走行空間の整備を全市的に展開し、都市の交通手段として自転車利用を促進
・モデル地区を設置し、車道に自転車レーンの整備や歩行者に支障なく景観に配慮したオープンスペースを有効活用した駐輪場整備

・ 公共交通機関の魅力を向上します

(マイカーからの転換を促進するため、公共交通機関の乗り継ぎ時などの利便性の向上を図ります)

- 交通結節点である駅周辺のバリアフリー化の推進
- バスからバスへの乗り継ぎ時の料金割引制度の導入の検討 等

・ 利用者の視点から、環境にやさしい交通行動をつくりだしていきます

- 商業者と連携した脱マイカー買物スタイルの取組の検討
- 過度な自動車依存から多様な交通手段を適度に利用する状態への啓発(モビリティマネジメント)の推進等

エネルギーCO-DO 再生可能エネルギーを 10 倍に拡大

高い目標を目指して、再生可能エネルギー市場の拡大を図るため、政策・社会・ビジネスモデルを実証する導入プロジェクトを進めます。

- ・ **横浜市内で利用する再生可能エネルギー[※]量を現在の 10 倍に拡大するためのロードマップを策定します**
※太陽光、太陽熱、風力、小水力、バイオマス・エネルギー、温度差エネルギー等を想定
- ・ **カーボンオフセットの導入を進めます**
 - 横浜FCや横浜Fマリノスと協力して、カーボンオフセットの試合の開催を検討
 - 150 周年記念事業等横浜市が関与する一定規模以上のイベントのカーボンオフセットのモデル事業の実施
 - カーボンオフセットの事業活動への導入の促進
- ・ **再生可能エネルギーが普及するための仕組みの構築を進めます**
 - 太陽光発電設備の設置時の助成や発電した電力の環境価値分の買取等、太陽光発電設備の設置時の負担を軽減する支援策や税制の活用など、幅広い仕組みを検討
 - 太陽熱利用システムの普及のための要件や支援策(設置時助成等)の検討や、工場等の排熱を有効に活用するための仕組みの検討など、熱政策の推進
 - 電力の利用者が自らの選択で再生可能エネルギーによる電力を購入することが出来る仕組みを検討
- ・ **市民、NPO、企業、行政の協働による再生可能エネルギーの導入を促進します**
 - 啓発効果の高い公共施設等への再生可能エネルギーの公民協働での導入の推進(象徴的な地域(みなとみらい 21 地区)での太陽光発電の事業化の検討等)
 - 市民、事業者、行政等の協働による再生可能エネルギーの普及の仕組みの検討
- ・ **排出ガスや安全性に配慮したバイオ燃料の普及促進の仕組みづくりを進めます**
 - バイオディーゼル燃料(BDF)の活用方策の検討
 - 公用車へのバイオ燃料(E3 等)の導入の検討
- ・ **次世代の環境対策の車両[※]の普及促進のための検討を進めます**
※バイオ燃料対応車 (FFV : Flexible Fuel Vehicle) や電気自動車、燃料電池車等

都市と緑 CO-DO ヒートアイランド対策などを通じたみどりあふれるまちづくり

窓を開けてもすごしやすく、通りを歩いても快適な、緑あふれる都市を、緑が資源としても有効に活用される社会を目指し、次の施策を地域特性に応じて展開していきます。

- ・ **より多くのクールスポットを創出し、ヒートアイランド対策を推進します**
 - 地域の特性に応じ、屋上緑化、壁面緑化等の推進や、ドライミストや遮熱性塗料など新技術の実証、更にはヒートアイランド対策効果の可視化に資するヒートアイランド対策の集中的な導入の検討
 - 注目度の高い象徴的な地域(みなとみらい 21 地区)でのヒートアイランド対策のパイロット事業の推進
 - 環境科学研究所等産官学が連携し、クールスポット効果の検証など、ヒートアイランド対策に関する調査・研究を推進

・ **緑をバイオマス資源の供給源として活用していきます**

- 道志村など農山村地域とも連携し、新技術の導入検討も視野に入れ、木質バイオマス資源の有効活用を推進

市役所 CO-DO 脱温暖化型の市役所づくり

現在の市役所の地球温暖化防止実行計画では、事務所等における取組、公共施設の整備及び管理運営に係る取組や各事業の特性に応じた取組を進めており、ISO14001 に基づく環境配慮行動と相まって、着実な削減に取り組んでいます。今後、実行計画の着実な推進を図るとともに、ISO の仕組みを温室効果ガス削減に効果的に活用しつつ、更なる削減に向けた取組の具体化を進めていきます。

- ・ 公共建築物の設備機器の制御等のきめ細かな運用上の改善や省エネ効果の可視化による省エネの取組の推進
- ・ 公共の建築物等について、省エネ型照明機器(省エネ型蛍光灯や LED 等)や省エネ型設備機器の新・増・改築時の導入に加え、改修・改造等の工事での導入などの省エネ改修、さらには再生可能エネルギー(太陽光・太陽熱等)の導入の推進
- ・ 公共建築物の新・増・改築についての横浜市建築物環境配慮制度(CASBEE 横浜)の認証に加え、既存の改修・改造等について制度の適用を検討
- ・ 公用車の低燃費・低排出型車両への転換を促進、バイオ燃料の導入
- ・ 市役所活動を通じて事業者へ環境配慮行動を拡大(市役所への納入事業者のエコ配送の推進、横浜型グリーン電力入札(グリーン電力の調達)の推進と民間への普及)
- ・ 小水力発電、バイオマス発電、廃棄物発電など未利用エネルギーの活用・着実な推進

※各分野の取組から市役所としての主な率先取組を抽出したもの

V 施策の推進方策

1 推進本部の設置

市に推進本部を設置するとともに、各区に推進組織を設置し、地域における行動を推進します。

市推進本部には、テーマ毎にプロジェクトチームを設置し、方針をより具体化することとし、早急に施策・事業実施の工程表を作成していきます。

2 施策の具体化に向けた議論の場づくり

脱温暖化社会のあるべき姿(目標)を共有するため、さらには様々な提案から新しい知恵・取組を生み出すため、市民・事業者・行政が幅広く議論を重ねることのできる場づくりを進めます。

議論で得られた将来像を関係者が共有して、施策の具体化を図ります。

3 条例の制定の検討等

脱温暖化の加速化に向けて、基準の提示や義務を課すといった規制的な施策や、融資制度・税制等の経済的な誘導策など、様々な施策の導入が必要になると考えられます。このため、施策の実効性の担保のための「脱温暖化条例(仮称)」の制定の検討等に着手します。

4 市民・事業者・行政の協働

市民への気軽なアドバイスを可能とし、市民や事業者からの知恵を引き出し、市民・事業者の参加・協働を活性化するため、「横浜市地球温暖化対策推進協議会」を核とした協働の取組を推進します。

脱温暖化の担い手を作る「環境市民大学」(仮称)の開設などにより、市民・事業者と連携して、脱温暖化に関する普及啓発、人材育成、拠点作りなどを進めます。

広範に市民や事業者の知恵と力を結集することができるよう、企業及びNPOとの協働・相談窓口を設置するとともに、温暖化対策に関するアイデアを広く企業等から募集します。

5 国内外の先進的な都市等との連携と情報発信

横浜市のみが独自に施策を展開するだけでなく、国や他の自治体との連携・協調した取組を進めます。

また、国際会議等への参加、アフリカ開発会議などの場の活用や、国連大学と連携した環境教育等の地域拠点(RCE 横浜)としての取組の活用などを通じて、国内外の温暖化対策において世界の先進的な大都市等と温室効果ガス削減の実践例や成功例を共有します。

さらに、温暖化に対する課題意識を共有するため、インターネット等による情報発信も含め、戦略的な広報を進めていきます。

横浜市地球温暖化対策事業本部 地球温暖化対策課
TEL 045-671-4103 FAX 045-641-3490
ks-ondanka@city.yokohama.jp

生活CO-DOに関する主要事業概要

1 廃食用油のバイオディーゼル（BDF）燃料活用事業

(1) 事業目的

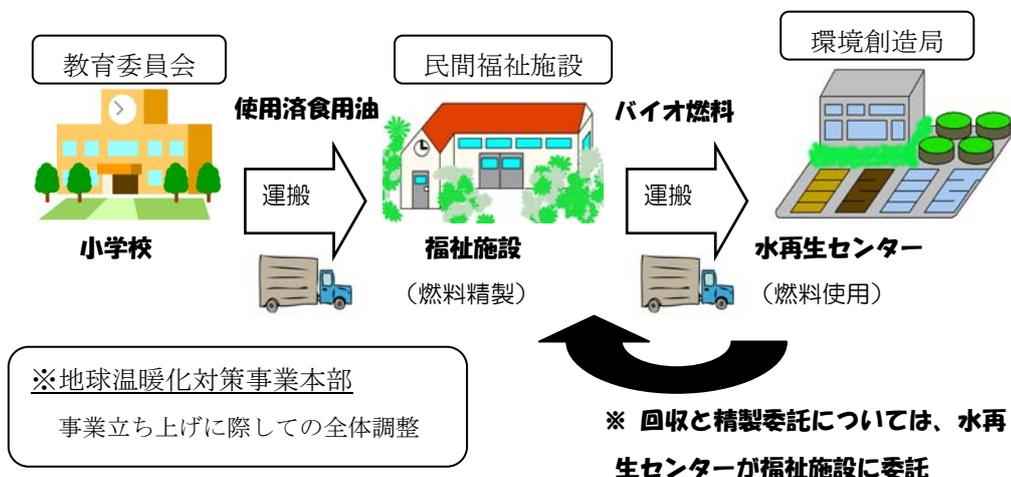
- ・ 使用燃料の一部を化石燃料である重油から植物由来のBDFに転換することによる温室効果ガスの排出削減
- ・ 福祉施設の活用による障害者の経済的自立支援
- ・ 小学校への環境教育、市民への普及啓発

(2) 事業概要

本事業は、平成 19 年度アントレプレナーシップ事業（職員提案に基づく事業）です。

学校から出る使用済み食用油を福祉施設が回収し、BDFに精製して水再生センターへ納入します。水再生センターでは、ディーゼルエンジン駆動の自家発電機の燃料である重油の代替燃料としてBDFを使用します。

平成 21 年度は金沢区内の全小学校（22 校）から使用済食用油を回収し、金沢水再生センターでBDFを使用します。平成 22 年度からは、市内全小学校から使用済食用油を回収するとともに、さらに2つの水再生センターで使用する予定としています。



2 ヨコハマ・エコ・スクール（YES）

（1）事業目的

- ・市民が求める環境や脱温暖化に資する情報と学習機会の効率的・効果的な提供
- ・市民・活動団体・NPO・事業者等の環境関連活動のネットワーク化
- ・脱温暖化の担い手となる環境リーダーの育成・養成

（2）事業概要

市内では、市民、市民活動団体・NPO、事業者、大学、行政などが環境に関する様々な講座、地域活動やイベントなどをそれぞれで実施しています。これらを、

「ヨコハマ・エコ・スクール（YES）」

という統一的なブランドとしてまとめ、

全市的な大きな動きに広げていこうというものです。

平成21年6月に開校カウントダウンイベントを実施し、7月からは本市の主催講座を皮切りに事業展開を始めています。

後述の「エコハマ省エネ実践モデル事業」、「子ども省エネ大作戦」や「横浜環境ポイント」も、市民の自発的な学びや行動を促すYESの考え方を具体化するものです。



3 家庭での省エネ行動の促進

（1）事業目的

- ・家庭でのCO₂排出量と省エネ行動の結果の「見える化」
- ・小学校や自治会町内会を通じた脱温暖化の地域への浸透

（2）事業概要

「子ども省エネ大作戦」として、こまめな消灯などの省エネ行動を、市内の小学生が夏休みを含む7月、8月の2ヶ月間に行い、各家庭の省エネリーダーとなる取組を小学校を通じて実施しています。

また「エコハマ省エネ実践モデル事業」として、日常生活での電気、ガス、水道やガソリンの使用に伴うCO₂の排出量と、省エネ行動による削減効果を環境家計簿へ記入することなどによって各家庭で実感いただく取組を、自治会町内会を単位として実施しています。

自治会町内会での取組

◆戸塚区・前田町町内会

エコハマ省エネ実践モデル事業に参加。町内会独自の取組として、白熱電球の電球形蛍光灯への取替えを推進するなど、地域あげでの取組を実践している。

4 横浜環境ポイント

(1) 事業目的

- ・環境行動に対する特典付与による、脱温暖化に対する意識の向上
- ・家庭での電気・ガス使用量の「見える化」による環境行動の促進

(2) 事業概要

国が実施する「エコポイント」とは異なり、市民に新しい「脱温暖化ライフスタイル」を定着させていくため、環境に配慮した行動に対し「ポイント」を付与することにより、省エネ活動などを実践するきっかけとなることを目指しています。

8月8日から9月27日まで、マザーポートエリアと開国博Y150 ヒルサイド会場内の2か所に設置するポイント交換センターで、「お得冊子（クーポン集）」などとの交換を実施します。

ポイントが貯まる主な行動

- ・電気・ガスの検針票を持参（前年同月比での削減量に応じて）
- ・「子ども省エネ大作戦」への参加
- ・省エネ製品の購入（節水型シャワー、省エネタップ、電球形蛍光灯、充電式電池）
- ・YES講座やズーラシアワークショップなどの環境活動への参加



エコライフ・チェックシート

学校 年 組 名前

（取組期間）平成21年7月1日から8月 夏休み終了日まで

7・8月に家族で省エネに取り組み、チェック結果に○をつけて計算してみよう!

チャレンジすること ～家族で取り組む7つの約束～		チェック結果			×	エコ ライフ度	=	ほし 星の数
		よく できた	まあまあ できた	できな かった				
テレビ	見ていないときは、こまめに消す。	2	1	0	×	☆☆	=	個
あかり	使っていない部屋の照明を消す。	2	1	0	×	☆	=	個
エアコン	冷房は28度にする。	2	1	0	×	☆☆	=	個
冷蔵庫	ドアの開け閉めは少なくし、あけっぱなしにしない。	2	1	0	×	☆☆☆	=	個
お風呂	シャワーを流しっぱなしにしないで、一人一分家族全員が減らす。	2	1	0	×	☆☆☆	=	個
くるま	買い物などは、歩いて行くか、自転車で行く。	2	1	0	×	☆☆☆☆	=	個
買い物	買い物袋を持ち歩き、余分な包装を断る。	2	1	0	×	☆☆☆	=	個

チェック結果合計 点

星の数合計 個

がんばった結果を計算してみよう!

チェック結果合計()点が、満点(14点)になるように、これからも、エコライフにチャレンジしよう!

星の数()個を下の星にぬってみよう!

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ = (木1本分)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ = (木2本分)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

※星の数14個で木1本分の二酸化炭素(CO₂)を減らしてくれます。

「子ども省エネ大作戦！」にみんなで取り組もう！
君たちのがんばりが、緑の地球につながるんだ！



この部分の裏に学校名を記入してシートから切り取って、ポスターや壁紙などに貼ってください。

子ども省エネ大作戦!について

エコライフ・チェックシートの書き方

チャレンジすること ~家族で取り組む7つの約束~	チェック結果			エコ ライフ度	星の数
	よくできた	まあまあできた	できなかった		
テレビ 見ていないときは、こまめに消す。	2	1	0	☆☆	4個
あかり 使っていない部屋の照明を消す。	2	1	0	☆	1個
買い物 買い物袋を持ち歩き、余分な包装を断る。	2	1	0	☆☆☆	個

チェック結果にエコライフ度の☆の数でかけ算してください。

チェック結果合計 **3** 点 星の数合計 **5** 個

□ががんばった結果を計算してみ ○のついている数字を合計してください。 けいさんけつ か ごうけい 計算結果を合計してください。

○チェック合計(**3**)点が、満点(14点)になるように、これからも、エコライフにチャレンジしよう!

○星の数(**5**)個を下の星にぬってみよう!



※星の数14個で木1本分の二酸化炭素(CO₂)を減らしてくれます。



右下の「**たままる**」チケットを切り取って、ポイント交換センターに持って行くと、「**横浜環境ポイント**」がもらえるよ。



平成21年8月8日から9月27日までに、ポイント交換センターへ持って行くと、「横浜環境ポイント」が3ポイントもらえるよ。そして、ポイントが貯まると、ポイント交換センターで、ポイントの数に応じてグッズなどと交換できるよ。

更に、おうちの**電気・ガスの検針票** (ご使用量のお知らせ又は、検針結果のお知らせ)でもポイントがもらえるよ。下の写真を参考にしてね。

おうちの人に、聞いてみて!

【検針票でポイントがもらえる方法】

- 電気・ガスの検針票をポイント交換センターに持って行くと検針票1枚につき1ポイント(5月から9月分が対象)
- 各月の使用量が前の年の同じ月より、少なかったら更にポイント。

【検針票】



ご参考までに昨年4月分は33日間のご使用で **320 kWh**です。

ポイント交換センター

【横浜ワールドポーターズ】
 8月8日～9月27日オープン ※9/8(木)休み
 時間:11:00～19:00

※みなとみらい線「馬車道駅」または「日本大通り駅」から徒歩5分
 もしくは 同「みなとみらい駅」から徒歩10分
 ※JR・市営地下鉄「桜木町駅」から徒歩10分

【開国博Y150:ヒルサイドイベント会場】

8月8日～9月27日オープン
 時間:9:30～

※相鉄線「鶴ヶ峰駅」「三ツ境駅」
 ※JR・市営地下鉄「中山駅」から「スーラシア」バスで約15分

◎その他ポイントがもらえるメニューは、横浜市地球温暖化対策事業本部サイトで紹介しているから見てね。
<http://www.city.yokohama.jp/me/kankyou/ondan/ecopoint/>

【問い合わせ先】
 横浜市地球温暖化対策事業本部
 横浜環境ポイント担当
 TEL 045-671-2681

省エネ行動ががんばります・宣言!

たままる ©Y150
)小学校

21世紀はライフスタイルの変革が求められています。

ステップ

3

環境家計簿をつけて、取組の成果をチェックし、実践・継続しよう!



エコライフへの取り組みは、実践し、それをチェック・見直し、継続することが大切です。環境家計簿を利用して定期的に月間のエネルギー使用量や二酸化炭素を把握しましょう。環境家計簿は、パソコンで直接入力できるもの、ダウンロードして活用するものなどもあります。ライフスタイルにあった方法を見つけ、省エネ行動を実践・継続しましょう。

〈関連リンク〉

- 東京電力(株)の生活情報サイト tepore(てぽーれ)「CO₂家計簿」
<http://www.tepore.com/co2diet/index.htm>
- 東京ガス(株)「my 環境家計簿」
<http://home.tokyo-gas.co.jp/mytokyogas/>
- 八都府市地球温暖化防止キャンペーン「環境家計簿ダウンロード」
<http://www.cop.ne.jp/2006/frame05.html>



●東京ガス(株)「my環境家計簿」

※他にもインターネットのホームページでさまざまな環境情報が提供されています。

生活情報サイト tepore(てぽーれ)「CO₂家計簿」

- 横浜市環境創造局「温暖化対策」
<http://www.city.yokohama.jp/me/kankyou/mamoru/ondan/>
- 環境省「地球環境・国際環境協力」
<http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka>
- 環のくらし <http://www.wanukurashi.ne.jp/>
- (財)省エネルギーセンター <http://www.scc.or.jp/smartlife/>
- 全国地球温暖化防止活動推進センター <http://www.jccca.org/>

子どものページの紹介

ヨコハマからエコハマへ 未来の子供達に美しい地球を残そう



- 環境省こどものページ
<http://www.env.go.jp/kids/>
- NIES子どものページ
<http://web3.nies.go.jp/nieskids/>
- 子ども環境情報センターエコナビ
<http://www.eeel.jp/ecocna/>



横浜市地球温暖化対策推進協議会

「地球温暖化対策の推進に関する法律」第26条の規定にもつき、本市の温室効果ガス削減目標の達成に向け、市民や事業者の具体的な取組を促す効果的な対策の実施について協議し、推進することを目的として設置されているものです。

■お問い合わせ先
横浜市地球温暖化対策推進協議会 事務局：横浜市環境創造局 温暖化対策課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1 電話 045(671)4109・FAX 045(641)3490
<http://www.city.yokohama.jp/me/kankyou/etc/shingikai/ondanka/>
平成19年6月発行 横浜市広報印刷物登録 第190113号 類別・分類 C-KJ060



～常にプラスを考える環境行動～



消費電力100%削減を実現しています

「エコハマ030」マスクト
へら星人ミーオ



エコ ハマ

環境家計簿

ヨコハマからエコハマへ

「エコハマ」の「エコ」はエコロジー(環境保護)や
エコー(広がり)を表現しています。



未来の子供達に 美しい地球を残そう



ジャンプ 横浜をかえる

- 新エネルギーを広めよう。
- 環境にやさしいライフスタイルを広めよう。
- 環境行動都市ヨコハマを作ろう!

横浜を環境行動都市にするために...

ステップ 生活をかえる

- 排出量を把握しよう。
- エコライフに取り組もう。
- 環境家計簿をつけ、省エネの取組成果をチェックし、実践・継続しよう。

ポップ 現状見直し

- 地球温暖化問題などの環境問題を自らの問題として考えよう。

※緑豊かな横浜の風景(舞岡ふるさと村・舞岡公園)

環境家計簿とは
毎月の電気・ガス・水道などの検針票や領収書から、エネルギー使用実績を記載し、家庭からの二酸化炭素排出量を算出します。月間のエネルギー使用量から二酸化炭素排出量を算出する家計簿シートは、パソコンからダウンロードすることもできます。ライフスタイルにあった方法を見つけ、省エネを実践しましょう。

「地球温暖化」とは？

地球温暖化とは、私たちの生活や事業活動に伴い、大気中に放出される二酸化炭素などの「温室効果ガス」の濃度が上昇することにより、地表付近の大気の気温が上昇する現象です。

「地球が温暖化する」ことで起きる問題

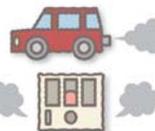
- 気候変動
- 海面上昇や砂漠化
- 食料や水の不足
- 感染症の流行



「温暖化」と私たちの生活との関係は？

私たちの日常生活での電気や燃料の使用によって、二酸化炭素は発生します。

- 自動車 (ガソリン・軽油)
- 冷暖房 (灯油・ガス・電気)
- 厨房・給湯 (ガス・灯油・電気・水道) など



ステップ 1

二酸化炭素排出量を把握しよう！

お家の電気、ガス、水道、灯油の年間使用量から、二酸化炭素排出量を計算してみませんか？

● 計算のしかた (例)

使用量 × 排出係数 = 二酸化炭素排出量

電気	5,629 kWh	×	0.37	=	2,083
都市ガス	539 m ³	×	2.21	=	1,191
灯油	114 ℓ	×	2.49	=	284

合計 **3,558kg/年間**

※ 平成16年度横浜市家庭用等省エネ診断実施家庭121世帯のうち、「4人家族」タイプの平均値です。

※ 上記は計算例です

使用量は使用料金のお知らせまたは、領収書のここに記載されています。



使用料金のお知らせや領収書がお手元にならないときは…

▼ 年間使用量を知りたい場合のお問い合わせ先

- **東京電力** 検針票に記載のお問い合わせ先、またはホームページ
電気のシェイプアップカルテ
<https://www3.tepco.co.jp/step/DV/MDVE08.htm>
- **東京ガス** 検針票に記載のお客センター、またはホームページ
my Tokyo Gas 今月のガス料金お知らせサービス
<http://home.tokyo-gas.co.jp/>
- **プロパンガス** 販売店名、連絡先をご確認のうえ、直接お尋ねください
- **横浜市水道局** 水道局インフォメーションセンターにお尋ねください
電話 045 (847) 6262



あなたの家の二酸化炭素排出量を計算してみよう！

使用量 × 排出係数 = 二酸化炭素排出量

電気	_____ kWh	×	0.37	=	_____
都市ガス	_____ m ³	×	2.21	=	_____
プロパンガス	_____ m ³	×	6.22	=	_____
水道	_____ m ³	×	0.46	=	_____
灯油	_____ ℓ	×	2.49	=	_____
ガソリン	_____ ℓ	×	2.32	=	_____
軽油	_____ ℓ	×	2.62	=	_____

合計 _____ kg/年間

※ 年間使用量が分からない場合は、当月使用量を12倍にして大まかに計算してください。

※ 上記の排出係数は、電気は東京電力(株)、都市ガスは東京ガス(株)、水道は横浜市、それ以外は環境省から

世帯人員数と二酸化炭素排出量 (kg-CO₂/年)



※ このグラフは、平成16年度家庭用等省エネ診断結果報告書より作成したものです。

横浜市の二酸化炭素排出状況は？



平成15年度の横浜市の二酸化炭素排出量は、約2,109万トンです。そのうち、家庭生活に伴って発生する二酸化炭素の量は、約456万トンで、市内全体の発生量の約21.6%を占めています (自動車などは含まれていません)。

- 全国の二酸化炭素排出量は、家庭からの排出量が約21%占めています。その主要な用途別の内訳は次のとおりです。
- 自動車: 31% 照明・家電製品など: 31% (注) 国立環境研究所 平成16年度データより
- 暖房: 13% 給湯: 12%

私達ができることは…

目標

地球温暖化を防ぐため、毎年1世帯あたり**2%ずつ**二酸化炭素を減らしましょう。



ステップ 2

エコライフに取り組もう！



分類	取組メニュー	CO ₂ 削減量 (kg/年間)	節約金額 (円/年間)	取組例	あなたの家をチェック!	
空調	夏は28℃を目安に設定する	17	670	○		
	冬は20℃を目安に設定する	30	1,170			
	フィルターを月に2回程度掃除する	18	700	○		
ファンヒーター	20℃を目安に設定する (都市ガス/石油)	19/25	1,210/710			
	照明	白熱電球を電球形蛍光灯に取り替える	47	1,850	○	
キッチン	冷蔵庫	適切な設定温度にする	34	1,360	○	
	電気炊飯器	ものを詰め込みすぎないよう、整理整頓する	24	960		
	電子レンジ	ご飯を長時間保温しない	34	1,900	○	
	電子レンジ	野菜のごしらえに電子レンジを利用する	12	940		
リビング	ガスコンロ	炎がなべ底からはみ出さないようにする	6	350		
	電気ポット	長時間使用しないときはプラグを抜く	60	2,360	○	
	テレビ	見ないときは消す (ブラウン管/液晶)	18/8	700/330		
	電気カーペット	設定温度は低めにする	103	4,090		
トイレ・洗面所	その他	広さにあった大きさを使用する	50	1,980	○	
	お風呂	家族が同じ部屋で団らんするようにする	238	10,400		
	お風呂	お風呂は続けて入る	89	5,650	○	
	お風呂	シャワーは不必要に流したままにしない	30	2,890		
乗り物	温水洗浄便座	使わないときはフタを閉める	19	770	○	
	洗濯機	便座暖房・洗浄水の温度は低めに設定する	22	880	○	
	洗濯機	お風呂の残り湯を利用する	7	4,200	○	
	自動車	アイドリングをストップする	40	2,220		
その他	自動車	ふんわりアクセル「eスタート」(やさしい発進)をする	194	10,700	○	
	その他	公共交通機関の利用を心がける	-	-	○	
その他	買い物袋を持ち歩き、省梱包を選んで買い物する	58	-	○		

※ (財) 省エネルギーセンター及び環境省のホームページを参考に作成

その他の省エネアイデア

- 電気製品を使わないときはコンセントからプラグを抜く
 - 電気製品などを買うときは省エネルギータイプものを選ぶ
 - 窓の外にすだれやよしずをつけて、日差しをさえぎる
 - 厚手のカーテンをかけ、窓からの熱の出入りを減らす
 - リフォームをするときは外壁や屋根の断熱を考える
- そのほか、みなさんの独自のアイデアでエコライフ実践しましょう！

● 取組例を計算すると…

二酸化炭素削減量
合計 **649 kg/年間**
節約できるお金
33,020 円/年間

※ あなたの家で実行している欄に印をつけて、その欄の削減量と節約金額の数字をそれぞれ加算していきます。

● あなたの家は…

二酸化炭素削減量
合計 _____ kg/年間
節約できるお金
_____ 円/年間

エコで得する!

環境モデル都市・横浜
G30からCO-DO30
市民の力が地球を救う

横浜環境ポイント

家族みんなで「ポイント」をためよう

横浜は、「横浜環境ポイント」で環境に配慮した行動に対し、「ポイント」を発行し、省エネ活動などを実践するための「きっかけづくり」を目指しています。
また、参加した家庭での電気・ガスの検針票の数値を集めて、CO₂排出量（エネルギー使用量）を「見える化」していきます。
更に、前年同月と比べて、皆さんの頑張りの「見える化」することによって、一人ひとりの環境意識の高まりにつなげていきます。

1 まずはポイントをためよう

家庭での省エネなどの環境に配慮した行動によってポイントをためていこう。

ポイントがたまる行動 ※詳細は裏面をご覧ください。



1. 家庭での省エネ行動

●電気・ガスの使用量削減
使用量を検針票で確認し、保管しよう。



2. 公共交通利用

電車やバスを使って
ポイント交換センターへ行こう。



3. 環境活動へ参加

ヨコハマ・エコ・スクール（YES）などに参加しよう。



4. 省エネ機器購入

電球形蛍光灯や節水型
シャワーなどを購入して、
レシートを保管しよう。

2 ポイントに交換

ポイント交換センターに行ってポイントをもらおう。

■ 1ポイント券



●この券で1ポイントをためることができます。



3ポイント以上たまるとお得冊子（クーポン集）が付いた「環境パスポート」がもらえるよ。「環境パスポート」にスタンプが押されて、ポイントをためていくことができます。

※発行の際に、氏名等の個人情報を書いていただくことになります。

<収集した情報の利用及び提供の制限>
当イベントで収集した情報は、情報配信及びポイントの問い合わせといった当イベントの円滑な運営及び改善のために利用します。当イベントで収集した情報は、法令に基づく開示請求があった場合、本人の同意があった場合、その他の特別な理由のある場合を除き、第三者へ提供はいたしません。当該個人情報の管理は、平成21年12月31日までを行い、以降すべて削除いたします。
<適応範囲>
本プライバシーポリシーは、当イベントにおいてのみ適用されます。

■ PASMOやSuica



●公共交通機関を利用した証明
（1ポイント）になります。
●ポイントをためることができます。

3 ポイントを使おう

ポイント数に応じて、よこはま動物園ズーラシア招待券や横浜FC戦観戦チケットなどの特典と交換！



ポイント交換センターはこちら（環境パスポート発行、ポイント交換）

期間：平成21年8月8日～9月27日

①Y150マザーポートエリア 交換時間11：00～19：00



設置場所
横浜ワールドポーターズ4階
※9月8日は同施設の
定休日

②Y150ヒルサイドエリア 交換時間9：30～



設置場所
Y150ヒルサイド会場
竹の海岸内
※開催時間は、日によって異なります

ポイントを貯めるには

1

家庭での省エネ行動で…

電気・ガスの使用量削減（平成21年5月分～9月分）



① 電気・ガスの検針票をポイント交換センターに持って行くと検針票1枚につき1ポイント（5月分～9月分が対象）



② 各月の使用量が前年の同じ月より少なかったら削減量に応じてさらにポイントがもらえます。

環境家計簿への記入（平成21年5月分～9月分）



① エコハマ環境家計簿を横浜市地球温暖化対策事業本部Webページからダウンロード又は各区役所の窓口等で入手。
<http://www.city.yokohama.jp/me/kankyuu/ondan/kyogikai/kakeibo/>

② その家計簿に家庭のエネルギー使用量を各月毎に記入し、交換センターへ持参すると各月毎1ポイントもらえます。（5月分～9月分が対象）

その他の環境家計簿でも可

東京電力(株)TEPORE「CO₂家計簿」 東京ガス(株)「my環境家計簿」
ステップチェンジ(株)「エコチャレ環境家計簿」
かながわ環境家計簿「エコボ」(神奈川県環境農政部) など

子ども省エネ大作戦への参加



市内の小学生（3～6年生）に、学校で配布されたエコライフチェックシートの「たねまるチケット」部分をポイント交換センターに持参すると3ポイント。

2

公共交通

公共交通を利用してポイント交換センターへ来場

ポイント交換センターへ公共交通機関を利用して来ていただいた方に1ポイントを進呈。

交通ICカード（PASMOやSuica）で確認します。



※PASMOは株式会社バスモの登録商標です。
※株式会社バスモ監理利用許諾済 第37号（株）ビットメディア 許諾
※PASMOマーク 及び PASMO は株式会社バスモが本商品・サービスの内容・品質を保証するものではありません。
※株式会社バスモの都合により予告なくPASMOカードが交換されることがあります。
※SuicaはJR東日本の登録商標です。
※JR東日本 Suica利用承認第28号（株）ビットメディア 許諾
※当該承認は、東日本旅客鉄道株式会社が本商品・サービスの内容・品質を保証するものではありません。
※東日本旅客鉄道株式会社の都合により、予告なくSuicaカードが交換されることがあります。

3

環境活動への参加で…

ヨコハマ・エコ・スクール（YES）への参加



参考

<http://www.city.yokohama.jp/me/kankyuu/ondan/yes/yes.html>

地球温暖化に関する環境問題をテーマにした講座やシンポジウムなど「YES（イエス）」のマークの付いたイベントに参加すると、1ポイント。

Y150ヒルサイドエリアに来場

Y150ヒルサイドエリアの入場チケットをY150ヒルサイドエリア内ポイント交換センターに持参したら1ポイント。

hama-eco cardを利用して定期券を購入

hama-eco card（クレジットカード：横浜交通局発行）で定期券を購入すると自動的に「よこはま協働の森基金」へ寄付されます。その環境への行動に対して1ポイント。

ポイント交換センターでhama-eco cardで購入した定期券をご提示ください。

4

省エネ機器を購入して…

省エネ機器指定4品目を購入



グリーンチャレンジ①「くらし」（横浜市脱温暖化行動方針ロードマップの重点取り組み）として、暮らしのあり方を変え、市民生活からのCO₂を効果的に減らしていくための省エネ機器等の購入に対してポイントを付与。

指定4品目



節水型シャワー



省エネタップ



電球形蛍光灯



充電式電池

指定4品目を購入した際のレシート（購入期間：5月1日～9月27日）をポイント交換センターへ提示したら、1商品毎に1ポイント。

※レシートは返却します

横浜環境ポイント運営事務局

お問い合わせ：横浜環境ポイント運営事務局 TEL:03-3502-3275 FAX:03-6744-1249

【主催】

横浜環境ポイント実行委員会 横浜市

【協賛】

岩井の胡麻油株式会社 株式会社NTTドコモ コカコーラセントラルジャパン株式会社 株式会社サンマックス
新日本石油株式会社 ステップチェンジ株式会社 日産自動車株式会社 プリンズ電機株式会社
株式会社三菱東京UFJ銀行 三菱みなとみらい技術館 株式会社横浜銀行 横浜市資源リサイクル事業協同組合
財団法人横浜市緑の協会 株式会社横浜フリースポーツクラブ

【協力】

東京ガス株式会社 東京電力株式会社 株式会社横浜インポートマート 社団法人横浜市商店街総連合会（五十音順）

【平成21年5月20日現在】

リサイクル適性の表示：
紙へリサイクル可



大豆油インキで印刷しています